

2010年2月9日

部会長：大澤 巖 (ダイワートブラジル)

A. <化学品部会 2009年の回顧と2010年の展望>

15 会員よりアンケート回答を得たが、1 会員より 3 分野につき回答頂き、計 17 回答について分野別にまとめた。尚、文具分野は 2 会員、農薬分野は原体（高濃度有効成分濃縮品）を販売するメーカーと製剤を販売するメーカーとに分けてまとめたが、前者は 3 会員から、後者は 1 会員から回答を得た。

<2009 年回顧全般>

売上については、17 回答中、増収 6 会員、横ばい 3 会員、減収 8 会員、利益に関しては、増益 5 会員、横ばい 2 会員、減収 10 会員であった。増収を記録したのは、高級化粧品、一般用医薬品、農薬原体（1 会員）、農薬製剤、種子、ロジンの分野で、増益を記録したのは、一般医薬品、農薬原体（1 会員）、農薬製剤、種子、ロジンの分野であった。一部の消費物資分野で好調であったが、素材産業分野、一部の消費物資分野では不調であった。

総括として、2009 年は、前年のリーマンショック以降の世界同時不況の影響が、上半期に尾を引き、また前半のリアル安の影響もあり、後半に回復を見せた業界もあったが、一般的に業績不振を余儀なくされた会社が多かった年であったと言える。

<2010 年展望全般>

売上については、17 回答中、増収予測 14 会員、横ばい予測 1 会員、減収予測 2 会員、利益に関しては、増益予測 13 会員、横ばい予測 2 会員、減益予測 2 会員であった。減収予測は、肥料分野、農薬原体分野（1 会員）であるが、マイナス要因は、会員会社の社内事情やジェネリック品との競合激化によるものである。減益予測は、農薬原体分野（1 会員）と農薬製剤分野であるが、ジェネリック品との競合、輸入買掛金決裁時の為替益が前年のようには期待できない事等による。総括として、2010 年は、ブラジルの景気回復による内需拡大、為替の安定（ここに来てリアル安に振れていることを懸念材料に指摘する声もあるが）、リストラクチャリング、新製品・市場開発等の努力により増収、増益を見込む会員が大多数である。

<分野毎回顧と展望>

1. 写真・デジタルカメラ

①2009 年回顧

減収、減益。後半の景気回復によるデジタルカメラの販売伸張は、プラス要因であったが、前半の需要停滞、リアル安による損失、また、為替変動分を売価

に転嫁できなかつた。

②2010年展望

増収、増益を見込む。マイナス要因として競合他社との価格競争は、激化を予想するが、商品ラインアップの強化、国内景気回復により需要は、堅調と予測する。

2. 筆記具

①2009年回顧

この分野には、2会員が属するが、売上においては、1会員は減収、1会員は横ばいで、利益においては、2会員とも減益であった。このマイナス要因は、上期の景気悪化、ST税の影響、上期のリアル安である。

②2010年展望

2会員とも、景気回復、リアルの安定をプラス要因として、増収、増益の予測である。

3. 高級化粧品

①2009年回顧

増収、わずかに減益であった。富裕層を対象とした価格体系であることから、経済危機の影響はあまりなかったが、上期のリアル安による商品のコストアップ、競合他社のなりふり構わぬ値引き戦略の影響がマイナス要因となった。

②2010年展望

増収、増益を見込む。既存販売品の育成策が順調に進んでいる事、主要販売店での売上シェアがアップしている事がプラス要因である。マイナス要因（不安要因）として、通関ストライキ発生の可能性があり、その結果、商品の入荷遅れ、新製品の発売遅れが危惧される。

4. 一般用医薬品

①2009年回顧

増収、増益。経済危機の影響はなく、市場拡大と商品の浸透がプラス要因。

②2010年展望

前年の好調さを維持しての増収、増益を見込む。マイナス要因としては、厚生省の法規制の強化があげられる。

5. 家庭防疫薬

①2009年回顧

減収、減益。新規顧客の開拓は、プラス要因であったが、前年の販売減少による在庫の増加、主要マーケットである中南部6州の大雨による蚊の少発生が、マイナス要因。また、喜ばしいことではあったが、デング熱が小流行に終わっ

た事も商い上は、マイナス要因であった。

②2010年展望

増収、増益を見込む。プラス要因として、新規顧客の本格参入、中国製、アルゼンチン製の液剤、エアゾール剤の輸入が、ブラジル国産へ切り替わる事があげられる。また、デング熱流行の程度が、プラス要因、マイナス要因となりうる。

6. 農薬原体販売

①2009年回顧

3会員より回答得たが、増収、増益が、1会員、売上、利益とも横ばいが1会員、減収、減益が1会員であった。プラス要因は、経営資源の集中、マイナス要因は、経済危機の影響、対象作物面積の減少、中国製違法品との競合があげられる。

②2010年展望

2会員が増収、増益予想、1会員が減収、減益の予想。
プラス要因は、経済危機からの回復、対象作物面積の回復、社員の増員。
マイナス要因は、移転価格税制、違法中国製品/ジェネリック品との競合、遺伝子組み換え作物の導入があげられる。

7. 農薬製剤販売

①2009年回顧

増収、増益。プラス要因は、品揃えの拡充、作物の高価格、為替オペレーションの成功。マイナス要因は、不安定な為替、主力作物の作付面積の減少。業界平均は、5-10%の減収と思われる。

②2010年展望

増収、減益の予想。プラス要因は、為替の安定化と不安定な作物供給による価格の高値推移予測。マイナス要因として、ここに来てのリアル安傾向の兆しと前年のようには、輸入買掛金支払い時に為替益が期待できない事。

8. 肥料

①2009年回顧

減収、減益であった。マイナス要因は、国内需要の冷え込み、業界全般の過剰在庫、国際市況の乱高下。

②2010年展望

減収、増益の見込み。プラス要因は、コストの削減効果と需要の安定化。マイナス要因は、生産品目、生産規模の縮小。

9. 種子（野菜・花）

①2009年回顧

増収、増益。プラス要因は、新規商品の市場投入、東北伯向けメロン種子の売上増加、後半のレアル高による在庫コスト減。マイナス要因としては、主力製品の品薄と世界規模の気候変動による生産減。

②2010年展望

売上増加、利益は横ばいの予想。プラス要因は、新規商材の売上増加、既存商品の安定販売、販路再編効果。マイナス要因は、試験農場運営費用の増加と欧州市場に依存している東北伯向けメロン種子販売の不安定さ。

10. 飼料添加物（鶏用）

①2009年回顧

減収、減益。マイナス要因は、供給量の減少、畜産品の値下がりレアル高、穀物飼料の値上がりによる添加量の減少。

②2010年展望

増収、増益の見込み。プラス要因は、供給量の回復、鶏卵需要のアップ（菓子類、ワクチン向け）。マイナス要因は、移転価格税制（20%⇒35%）

11. 接着剤

①2009年回顧

減収、減益。マイナス要因は、リーマンショックによる景気後退と原材料生産中止による代替品への切り替え。

②2010年展望

売上、利益ともに横ばいの見込み。プラス要因は、為替、マイナス要因は、安価品の市場参入。

12. プラスチック樹脂用着色剤

①2009年回顧

減収、減益。プラス要因としては、下期におけるレアル高と需要回復があったが、マイナス要因としては、上期のレアル安による輸入原材料のコストアップ、顧客の在庫圧縮、競争激化による同業他社の売価/加工賃引下げ戦略、顧客よりの値下げ要求圧力等があげられる。

②2010年展望

増収、増益を期待。プラス要因としては、内需の拡大、輸送機器市場の拡大、リストラクチャリングによる組織の効率化、コストダウン、赤字商いの見直し、粗利益管理の徹底があげられる。マイナス要因としては、為替動向（レアル安への不安）、顧客からの継続した売価引下げの圧力、同業他社の低価格戦略がある。

13. ロジン（松脂）※テレピン油、製紙用サイズ剤、塗料/接着剤用樹脂

①2009年回顧

微増収、増益。プラス要因は、原料価格安定による粗利益の向上。マイナス要因は、競合他社の増加と競争の激化。

②2010年展望

増収、増益の見込み。プラス要因は、新製品の上市、原料の代替によるコストダウン。マイナス要因は、為替の影響による輸出不振と競合他社の台等。

14. 商社（1社）

①2009年回顧

売上、利益とも横ばい。マイナス要因は、リアル高、需要減、在庫調整。

②2010年展望

増収、増益見込み。プラス要因は、需要回復と価格上昇。

B. <ブラジルの景気回復は本物か？>

- 本物である・・・4社
- 国内消費が堅調
- 本物、しかし貧民層の購買力が向上しているのか疑問
- ペースは、昨年比べて落ちても上昇傾向は続くのでは
- 実感として、わずかに景気は良くなって来ている
- 期待はできるが国内需要だけで磐石な景気回復を築けるのか、輸出の回復も重要
- 農産物に関しては、まだら模様と認識
- 2009年末公布の移転価格税制の変更（20%→35%）は死活問題⇒景気回復に影響
- まだまだ様子見

総括⇒景気回復は、課題・疑問もあるが、本物ではないか

C. <死角は？>

- 大統領選で金をばら撒き過ぎて負債が増える事
- 貧民格差を抱えての先進国化は可能なのか
- 大統領選挙による混乱と治安
- インフラの弱さとロジスティックコストの高さ
- インフラ整備の遅れと発電量不足、高速道路網／港湾設備等の問題が山積み
⇒最終的に景気回復の足を引っ張る事を危惧

- 厳しい法規制
- 輸出競争力をどこまで維持できるか（為替、税制等）
- 為替動向
- 為替政策による輸入品の増加、国産品の輸出力低下
- レアル高による輸出産業への影響、中国品との価格競争

D. <大統領・知事選挙の影響は？>

- 影響なし/特に意識なし・・・4社
- 大勢に影響なし
- 誰が大統領になっても基本的な政策は変更できない⇒影響なし
- 誰が選ばれても特に大きな変化はなし⇒影響なし
- 政策によっては、一時的に良い影響が出るのではないか
- ドル高が進み在庫コストアップ
- 債務救済の多発による回収遅延発生
- 選挙対策での大盤振る舞い⇒財政圧迫⇒企業への増税⇒コスト増⇒退散

総括⇒ドル高、債務救済の影響、各種選挙対策の悪影響/増税の危惧を指摘する声もあるが、過半数の会員は、特に大きな影響はないと考えている

以上